



きよだいいせき げし 巨大遺跡と、夏至の日の出

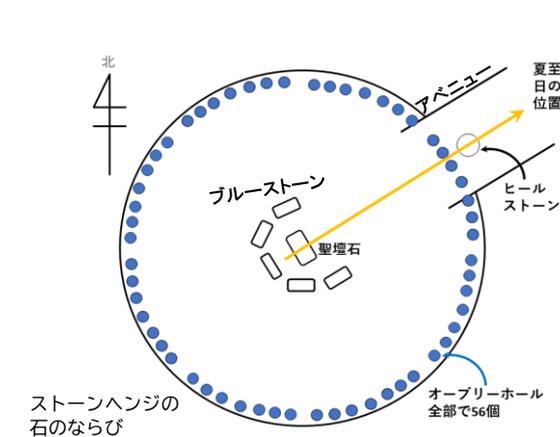
今年の夏至は6月21日。夏至、太陽が一番高く上る日と言われても、あまりイベントなどが浮かびませんよね。それもそのはず、日本のほとんどが梅雨景色。そして昔は田植えをこの時期までに終わらせなくてはならないとっても忙しい時期。なので今回は日本を飛び出して、海外にある、夏至が関係する遺跡をご紹介します。

イギリスのロンドンから西へ約150km、平原の中に現れる巨石の群、これがストーンヘンジです。



ストーンヘンジ

ユネスコ世界遺産に1986年に認定されており、認定のポイントが「昔の祭りの遺跡」「建築技術の革新」「天文的意義」「文化交流の証拠」などがあげられます。では、この中の「天文的意義」からストーンヘンジをみてみましょう。



ストーンヘンジはほぼ円のかたちで石が並べられ、真ん中には聖壇石、取り囲むようにブルーストーン。夏至の日は、アベニューにあるヒールストーンの方角からから日が昇り、聖壇石に日が差し込みます。昔の人はこの太陽の差し込み方を見て、種はいつ蒔いたらよいか。いつ冬に備えるか。暦替わりに使っていました。そこから収穫のお祝い、豊穰などのお祭りの場所になったようです。今でも夏至の日にはストーンヘンジの中まで入り、お祭りをしています。(いつもは立入禁止。)

天文的意義は夏至の他にもあります。まわりを取り囲むように空いている穴、オーブリーホールは石を決められた場所に差し込むことで日食や月食を計算できるといいます。天文は昔から人々に興味をもたれ、生活に役立てられていたのですね。